

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決!



2010
9
月号



夕焼けよりも赤く空を染めるよー
—赤とんぼ—

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第41号 2010年9月1日発行



作品:「秋の空」 楽書き詩人ひそか

「ありがとうの和の輪」の3回シリーズの3回目。
楽書き詩人ひそかさんの作品です。



「ありがとうの和の輪」
のロゴマーク

秋の空
空が高くなる
雲が鱗になる
心が染まってゆく

季節の中で秋が一番好きで、特に秋の空が大好きです。
もこもこ浮かぶ鱗雲を見ていたら、この詩が浮かびました。
今回、表紙絵を描く機会をいただきまして、詩からイメージした絵を描きました。描きながら、早くも色づく紅葉が待ち遠しくなっています。



大イチョウのひとりごと
イチョウ並木というと、
東京の明治神宮外苑の
絵画館前、大阪の御堂
筋が有名だ。この姿は
まさしく「都市の風格」。
落葉前に電信柱状態に
強剪定されてしまうイ
チョウ並木の姿。これ「都
市の恥」だと思う。

*「あの手この手」は大和市民活動センターのH.P.では
カラーでご覧になれます。

<送付の際、同封されているご案内>

- ・9/11(土)実施の「第2回大和市民活動センター登録団体交流会 2010」のお知らせ
- ・徹底解説「NPO 法人の会計基準」研修会のお知らせ

街づくりは人と人のつながりから ここに「新しい公共」があります

【協働事業提案検討結果報告会】

8/26(木)9:00 から始まった協働事業検討結果報告会では、提案された以下の2事業が協働事業として推進することに決定しました。平成23年4月からスタートです。

★「ブレママ・パパ チャレンジ離乳食教室事業」<栄養サポートやまと>

実技体験を通じた教室の開催は、妊娠中に親が抱える不安を軽減することができる有効な事業となることから協働事業として推進していく。

★「障がい者と地域住民とのふれあい体験活動を通じた共助・共生社会の実現を目指す事業」<NPO 法人大和市腎友会>

障がい者と地域住民とのふれあいを通じた、共助・共生社会の実現を目指す取り組みは、重要な課題であることから協働事業として推進していく。



市民活動の現場から

★「やまとりんご 親子で食育クッキング」(協働事業)

～もぎとり&つくろう! りんごパフェ～

<食のアトリエ>

8/19(木)、南林間のえんどう農園でりんごのもぎとりをした後、林間小学校家庭科室でパフェ作りをしました。今回はダウン症親の会「青い鳥の会」の協力で、「青い鳥」の親子21組44人、一般公募の親子12組18人の参加となった。

猛暑のため、りんごの生育が例年より悪かったのが残念でしたが、厳しい暑さの中、りんご園への行き帰りが心配されましたが、特に体調不良を訴える人もなく、担当を分担したことで運営がスムーズでした。

小さな子どもでも作れるので、親子で楽しくクッキングし、「青い鳥の会」の親子と一般参加の親子が同席して、子育ての話などで会話が弾んでいました。



★「夏休み学習教室 IFC 学べ～る2010」を開催

<やまと国際フレンドクラブ(IFC)>

18/16(月)～18(水)までの3日間、大和市保健福祉センターで、やまと国際フレンドクラブ(IFC)主催の外国にルーツをもつ小中学生のための無料学習教室「IFC 学べ～る」を開催。

参加者は子ども達が、各日22名、学生ボランティアが各日20名、教室は活気にあふれていました。

今回の先生役ボランティアは、初参加してくれた県立大和西高 国際協力部WAOの部員の皆さんと昨年に参加してくれた県立神奈川総合産業高校のボランティアの皆さんです。詳しくは以下のHPをご覧ください。

<http://ifcyamato.hp.infoseek.co.jp>

★「わが街の資源再発見事業」(市民活動推進補助金はぐくみ)

～住んでいる街に「宝」を探す～

<内山の街づくりを考える会>

この主催企画は大和市の北に位置する「内山の街づくりを考える会」(会長は鎌田幸雄さん)。「従来の標準規格型の街づくり」ではなく、内山の地域資源を探り吸収し、内山型の個性ある街にしたいと鎌田さんは言う。資源＝「宝」の分類は5つ。自然、景観、生活文化、歴史、人だ。そのひとつ、自然資源を探す舞台は「つるま自然の森」。まず実際に足で歩き、五感でそこに「宝」があるかどうか、探ろうと7/24(土)に実施。22名が参加。この日、からりと快晴。野草と野鳥の専門家を招き、講釈を得ながら森を歩く。この「森」の近所に長く住んでいるのに、今日初めて歩いた。空気がおいしい。街中はむっと暑いのに、ここは風がなんとも涼しい。気持ちよかった。鳥の声がちやんと聞こえた。すべてが目にはやさしい。歩いていて膝が痛くならなかったという声を聞く。

この「森」にオオタカが棲んでいるわけでもないし、なんの変哲もない緑地だけれど、人の生活にとってなくてはならない「森」という資源＝宝がここにあることを実感できた。

(いっしょに参加したつるまの森保全協力会・小杉記)

★「平和を願う写真展」(市民活動推進補助金はぐくみ)

～原爆忘れまじ/インド・バングラデシュ～

<チーム ピース チャレンジャー>

8/25(水)～27(金)、渋谷学習センターで開催された写真展。原爆投下後の広島・長崎の写真やインド・バングラデシュの児童労働やストリートチルドレンの子どもたちの写真は、あまりにも現代の日本とかけ離れていて実感がわきませんが、現実のこと。改めて平和のありがたさを実感しました。大和市内での写真展は今後も続くとのこと。ぜひ、親子で会場に足を運んで、平和について語り合ってください。

「センター」のある日ある時

8月18日(水)晴れ

「しんちゃんハウス」の子ども達はボランティアの高校生が着替えるのももどかしそうに、高校生の周りを飛んだり、洋服を引っ張ったり、まとわりついて離れない。高校生もそんな子ども達がかわいくてたまらない様子で対応している。一緒におやつを食べた後はきちんと後片づけをすることを忘れない高校生たちです。

“5円”で広がる“ご縁”「情報交差点」をご利用ください



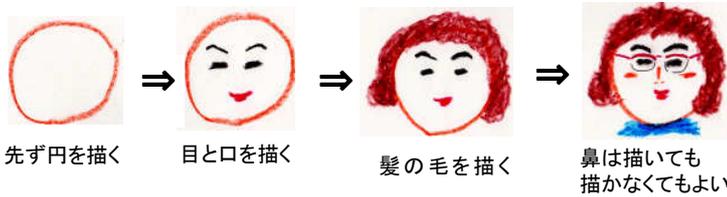
「情報交差点」は偶数月の1日にお届け。イベント情報、仲間を広げたいなどのチラシを「センター」へお持ちください。1枚5円で約200団体(1,000円)へ発送できます。封入作業をしながらのコミュニケーションは、まさに井戸端会議。楽しさとお得感がいっぱい「情報交差点」をご利用ください。

*次回 10/1(金)にお届けします。

9/30(木)が封入、発送作業日です。

7/24(土) 「親子、兄妹で似顔絵 描きっこしよう」
開催 ～笑顔で伝えるあなたの愛情～

ペアになった相手の紹介から始まり、人それぞれ紹介のしかたが違って、おおいに盛り上がり、和やかな雰囲気。講師のあずみさんから似顔絵を描く基本を教えていただく。



先ず円を描く → 目と口を描く → 髪の毛を描く → 鼻は描いても描かなくてもよい

「難しい～」などと言いつつも、だんだん楽しくなっていくのがわかる。最後に魔法(ほっぺに色)をかけて完成。

みんな、よく描けました



おほき 趣 ほのほの絵師あずみさん

相手へのメッセージを書いて、お互いに交換する。「親子で見つめ合うなんて初めてだった」と、うれしそうに話す人。「額に入れて飾らなくちゃ」という声が上がる。「似顔絵なんて描けない」と思っていたのに、「おー、こんなによく描けた」と満足感いっぱいのセミナーだった。笑い声の絶えない、楽しさいっぱいの“似顔絵描きっこ”企画してみませんか。(M. I.)



8/25(水) 「フィルム・コミッションってな～に」
開催 ～フィルム・コミッションで街を活性化させよう～

お話は杉下由樹さん(NPO 法人湘南市民メディアネットワーク理事など各種委員会の委員)

街すべてがダイヤの原石！

フィルムコミッションとは、映画、テレビドラマ、CM などのあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致して、実際のロケをスムーズに進めるための非営利な活動です。

観光の要素などよりも、実際にドラマで必要な場面を提供できればいいのです。生活感のある路地裏だったり、実際の酒場だったり、議会の議場だったり、ありとあらゆるものが対象になるとのこと。「街のすべてがダイヤの原石です」に、40 人の参加者は思わず納得。

市民全員参加の究極のまちづくり！

大和市は地の利がよいので、ロケ班が日帰り可能。でも、昼・夕飯が必要となれば、地元のお弁当屋さんやレストランが繁盛する。双方にとってメリットがある。

市民の目線でいろいろな場所を写真に撮ってファイルしておくことが大事で、まさに市民全員が参加するまちづくりになるのです。映像は“観る”時代から“参加”する時代、と強調された。

夏休みボランティア体験「このゆびとまれっ！」に
たくさんの中・高校生が参加しました



そこにはイキイキとした中・高校生がいました

◆サウンド・テーブルテニス

場所：大和市保健福祉センター 13:00～17:00
7/26(月)参加者 22 名(対象者 14 名高校生 6 名サポーター 3 名)
8/23(月)参加者 17 名(対象者 8 名高校生 3 名サポーター 5 名)
*準備→自己紹介→球技説明→球技(球拾い)→交流→後片付けまでしっかりサポートしました。

ボランティア活動の現場から

木・森・人 すべてがきらめく体験を！

(楽書き詩人ひそかさんからのメール)

8/2(月)～8/8(日)、朝霧高原にて、ボーイスカウトの祭典「日本ジャンボリー」が開催されました。

体験プログラムの中に、森を再生する“きらめ樹(皮むき)間伐”が採用され、全国から集まった 2500 名の子供達に“きらめ樹”を教えるリーダーをさせていただきました。

木・森・人すべてがきらめく体験を子供達とできたことは、この夏の宝物です♪

きらめ樹について、詳しくはコチラをご覧ください。

NPO 森の蘇り <http://mori-no-yomigaeri.org>

◆しんちゃんハウスで子育て支援

7/28(水) 7/29(木) 8/2(月) 8/11(水) 8/18(水)
中学生 7 名 高校生 10 名の参加でした。

◆FM やまが聴けるラジオを作ろう

8/5(木) 中学生 8 名 指導者 5 名の参加でした。

◆NPO 法人サポートハウスワン・ピースの子どもたちとボランティアとの交流会

8/7(土) 参加者 39 名 高校生 4 名の参加でした。

◆視覚障害者と中高生との交流会

8/9(月) 参加者 26 名 中学生 4 名の参加でした。

「センター」のある日ある時

8月19日(木)晴れ

柏木学園高校の卒業生(大学1年生)M君が来館。第一声が「やっぱりここは、懐かしくて安らぎます」「大学ではいろんな個性をもっている人との出会いがあり、毎日が充実していて楽しい。これも柏木学園高校で濱谷先生との出会いが合ったから」との感謝の言葉を聞くことができ、うれしいひと時でした。

『やまとっこ☆みつた』

第 106 回 7/6(火)～地域にご恩返ししたい～
＜カットスタジオみどり＞

夫の母の代から、鶴間の二条通りで美容室を始めて 57 年になります。仕事をしながら 4 人の子どもを育てるのは大変でした。お客様や商店街の方々が育ててくださったという思いがあります。地域のために何か出来る事はないか、役立つ事がないか、絶えず考えています。今は高校生の短歌を飾っています。一緒に出演していただいたお友達は美容室での出会いを話してくれました。

第 107 回 7/20(火)～貴重な自然環境を大切に～
＜引地川かわくんだり実行委員会＞

引地川が自然護岸になり、ハグロトンボが大復活し、今年は 969 頭を数えました。神奈川県では、引地川と箱根湿生花園でしか見られない”ナカミクリ“(いがぐり坊主のような実がぱつぱつとついている植物)という準絶滅危惧種の植物が生息しています。その他にもアオモントンボ、コオニヤンマや綺麗な流れのある川にしか住まないサナエトンボなどを見ることができます。

第 108 回 8/3(火)～川にゴミをすてないで～
＜引地川水とみどりの会こどもエコクラブ＞

川の掃除をしながら、水かまきりと言う珍しい虫を見つけたり、ザリガニをつかまえたり楽しいことがたくさんあります。ゴミを拾うだけではなく、いろんな生き物の観察ができるのでおもしろい。「川にゴミをすてないでください。」どうして、生き物が住む川に平気でゴミをすてるのでしょうか。きれいな川を守って、生き物や自然を大切にしたい。と子どもたちからのメッセージでした。

第 109 回 8/17(火)～人生の目標を探すため～
＜柏木学園高等学校短歌書道部先生＞

心に悩みを持っている子ども達が生きる場、心の表現ができる場、居場所として「短歌書道部」を作りました。活動理念として「心に筋肉をつける」という言葉を生徒に言っています。短歌は心の表現の出会いですが、続けることによって心の成長の軌跡みたいなのが、残っていきます。顧問の濱谷先生が熱く語りました。(リクエスト曲にあわせて手話で歌いました。)

第 110 回 8/31(火)～部活動の楽しさ辛さも共有～
＜柏木学園高等学校短歌書道部生徒＞

4人がスタジオに入ると途端に狭いスタジオ内が笑い声で一杯になりました。高校生らしい部活の話、大会での失敗談、厳しくも優しい顧問の先生への感謝などを途切れなく話しました。8月初めに行われた全国高文連大会で 2 位入賞の橋本君の作品『かんを蹴るからんと音は悲しくて 少年時代はもどってこない』を即興で竹澤さんが詩吟にして読み上げるチームワークの良さも伝わりました。そんな様子を笑いながら、時には涙ぐみながら見守る濱谷先生の姿がスタジオの隅にありました。

*「朝ラジ☆ホットスクランブル」は再放送が 2 回あります。
当日の 15:00～16:00 22:00～23:00

＜これからの出演団体＞

- 第 111 回 9/7(火)くじらのしっぽ
- 第 112 回 9/21(火)クロスオーバー大和
- 第 113 回 10/5(火)内山の街づくりを考える会
- 第 114 回 10/19(火)日本オオカミ協会

★やまとっこ☆みつた ★やまとっこ☆みつた ★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた

「早く収まるように…」と祈りながらジッとしています。駄目ですね！高層ビルの展望台で大地震…バンジージャンプの感覚でした。(望月則男)

揺れが治まるのを待って、家族の無事を確認します。うちの自治会は 3 丁目公園で安否確認と情報発信をします。ご近所さんはいるかな？(関根孝子)

まずは、安全な場所を確認して、そこに非難すること。そして、対策本部の情報に基づいて行動する。独断で判断をせずに、家族との連絡をとる。(松村 襄)

今住んでいるマンションは砂地に建っているそうです。地震が起きたらグラグラと傾いて、部屋から出られなくなるそうです。外出時にと願うべきでしょうか？(櫻井貞代)

たぶん大慌て。日中なら家族はバラバラ。災害用伝言板サービスで、まずは家族の安否確認。使い方を家族でおさらいしておこう。(村山真弓)

「飯(めし)のことより、まずトイレだ」と言う。でも、それも日頃の「何としても生きようね」という意志と頼りになる仲間があればこそ。(小杉皓男)

大きい家具は(一応)留めてあり、水もある。しかし非常袋の中身はどうなっているだろう…。本や食器棚のガラスが心配。(中山みゆき)

災害は忘れた頃にやってくる。今ここで起きたらどうなる？を時に自問自答する。身の周りは安全？逃げ道・場所は？応急処置は？等々(浅見正明)

地下鉄に乗っていたら、と思うとジッとします。センターだったら助かるかな？隣は公園ですし。プレハブの良いところ再発見です。(石川美恵子)

熱血編集後記



テーマは「今、地震が起きたら…」

* 今号の用紙は「コスモス」。薄紅色と白にチョコレート色も加わり、秋の風情が変わってきています。

「あの手 この手」第 41 号 発行日・2010 年 9 月 1 日

発行・大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館>月～土 9:00～18:00 >
〒242-0021 大和市中心 1-5-1

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
E-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyodounokiyoten.com/



大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する 広報紙「あの手 この手」。

9月1日付け9月号(第41号)をお届けします。

8月27日付けの朝日新聞社説に「変われ高校生」と見出し、続けて「心のスイッチ入れる方法」とあった。最初の6行にこんなことが記されていた。

<日本には337万人の高校生がいる。研究機関などの調査によれば、3人に2人が「自分はダメな人間だ」と感じ、10人中7人は「あこがれている人がいない」と答える。そして毎年7万人が中退で去る。>と。

今から7年ほど前になるか、大和市自治基本条例をつくる会のメンバーで大和市内の高校を延べ6回にわたって訪れ、直接高校生の「声」を聞くという機会があった。時間のおしまいに「アンケート」をとらせてもらった。最初のアンケート項目は三者択一で以下のような内容だった。

- ・21世紀は人類にとって希望のある社会になる。 思う 思わない わからない
- ・今より世界は平和になる。 思う 思わない わからない
- ・国民生活は今より豊かになる。 思う 思わない わからない

後日、集計して現れた結果は「思わない」を選んだ高校生が圧倒的に多かった。「努力しても無駄」というアンケート結果もその当時、新聞の1面に掲載されたことがあった。

大和市民活動センターでは今年の夏、中高生夏休みボランティア体験「このゆびとまれっ！」という企画を去年に引き続いて催行した。いくつかあるその企画のなかで「視覚障害がある方に[FM やまと]が聴取できるラジオをつくって差し上げよう」があった。NPO 科学探検隊スタッフが部品の調達と当日の指導。私参加しますと手をあげて集まった中高生は慣れない半田ごてを持ち、部品をつなぎ、イヤホンを通してなんとか雑音が届いただけで大喜び。NPO 科学探検隊スタッフにラジオの調整と[FM やまと]の77.7Mhzに固定する作業をしてもらい、後日できあがったところで、視覚障害がある方に「センター」に来ていただき、交流会を兼ね、引渡し式。「こう持って、こうしてこのダイヤルを回すとね」、「うん、聞こえた。なんか言っているのがわかるわかる」。手渡すほうも受け取る方も真剣だ。そして笑い声が会議室に満ちた。

今の高校生は自己肯定感を持ってない、居場所がないなどと言われる。確かにそうなのかもしれないけれど、笑顔を見せなかった高校生を視覚障害のある方が笑顔を引っ張り出してしまうマジックを目の前で見せてもらった。こうした機会をもっとつくるのが「センター」の大きな役目なのだと思った。 2010/09/01 記・[拠点やまと]広報係 小杉皓男

